



リビングの吹抜けは、見学会で訪れた実例を見て、どうしても取り入れたかったもの。高い位置の窓からは光をたっぷり取り入れることができ、外からの視線を気にする必要もない。掃き出し窓から、春には向かいの桜並木の借景が楽しめる

造り付けの飾り棚にお気に入りのカップを「見せる収納」。内装工事の一環として造作してもらうことで、家具会社に発注するより費用を抑えることができた



白い壁は、昔から陶磁器の材料にも使われる天然の粘土を塗ったもの。アーチをつけた垂れ壁やダークブラウンの見せ梁で南欧風に

憧れのスキップフロアやバルコニーを予算内で実現
 住宅を出る時期が近づき、「そろそろ家を建てようか」と思い始めたころ、一枚の実例写真に目を奪われた妻のSさん。「自分たちの好みにぴったりの家で、こんな家に住めたらいいなと思いましたが、実際は自分たちには手が届かないものと完全にあきらめていました」
 できるだけローンを組みたくなかったKさんは、余裕をもって買える予算を土地代込みで3000万円と算出し、当初はそれで買える建売住宅を見て回っていたそう。そんな中、たまたまその写真の家を建てた建築会社の前を通りかかり、中に入って話を聞いてみると、予算内で十分建てられることが判明。すぐに依頼を決めた。
 お気に入りのリゾートホテルのような、梁を見せた高い天井、むく材の床に白い塗り壁。そしてスキップフロアや広いバルコニーなど、望んだプランは予算内ではほぼ完成。少しオーバーした分は、2階や水まわりの壁をクロス張りにすることでコストダウン。思い切った柄を選んだり、柄を組み合わせたリ、クロスならではのアレンジを楽しむこともできた。
 吹抜けの窓から月や桜を眺めたり、広いバルコニーで外気を浴びたり、心地いい新居で豊かな暮らしを送るKさん一家だ。

1000万円台の家づくり 

天井は白く高く梁を見せて
 伸びやかな空間で心もくつろぐ

●京都市伏見区 K邸